



「おいしい」は魔法の言葉 もっと聞きたいため、消費者に届けたい



輝くみらい人

常盤基幹支店管内

横山 英樹 さん (59歳)

集落で離農者が多く、空いた農地をみて、「何とかしたい」という思いから就農を決意した横山さん。水田2.5haからはじめ、農業一本で生活するため徐々に規模拡大を図り、現在は20ha作付けする。

「常盤地区」では、40年程前から売れる米を目指し、安全・安心の米作りの特別栽培米を作ってきた。消費者との結びつきが強いのが特徴で、就農当時もその基盤がしっかりできていたおかげで、苦労しなかった」と振り返る。

横山さんは、平成29年産あおもりの旨い米グランプリの「青天の霹靂」の部でグランプリを受賞。「常盤地区の従来の栽培を徹底した。ただ、規模拡大したからこそ田んぼの見回りに手を抜かず、小まめな水管理に気を付けた。「青天の霹靂」は宿命を背負った品種。食味がよく、おいしい米にするよう作り手に責任がかかる。拠点圃の米でグランプリを受賞できたので、うれしいと同時にホッとされている」と話し、「『おいしい』と言われるとうれしく、これからも頑張れる」と笑顔だ。

平成30年の米生産調整の変更により、今後は特に消費者に求められる米づくりが必要とし、「常盤地区の安全・安心の栽培が身近にありすぎて、若い世代では自分たちの地区の栽培法が『消費者に求められている』という意識がなくなりつつある。消費者と交流し、結びつきが必要。そして、農業で生活できる社会を地域に残していきたい」と話した。

◇プロフィール よこやま・ひでき
 家族構成：母、子 栽培作物：米 20畝（青天の霹靂 1畝、つがるロマン特別栽培 19畝）、にんにく 60畝 農業歴：25年
 経歴：ときわ良質米生産部会副部会長、ときわにんにく部会副部会長
 JAへ一言：農家が農業で食べていけるために、商品が見える販売を行い、農産物価格の維持に努めてほしい。